めいろうこどもえん　5月園だより

２０２２年度　年主題〈つながって　～今、わたしを生きる～〉

0･1･2歳児５月主題「はじめまして/よろしくね」

月のねがい

◎神さまからお預かりしたいのちとして大切にされる(0)
◎新しい場所で友だちや保育者と出会う(0)
◎自分のありのままを表現して受け止めてもらう(0)
◎保育者と祈ったり、賛美する中で神さまと出会う(1.2)
◎受け入れてもらえる安心感をもち、過ごす(1.2)
◎春の草花、虫などに触れ、心を開いていく(1.2)

3･4･5歳児５月主題「はじめの一歩」

月のねがい

◎新しい生活の場で神さまの愛を感じる時、賛美や祈りの時を心地よく感じ、安心して過ごす(3)
◎自分が受け止められ安心を重ねていく中で好きな遊びや場所が見つかる(3)
◎春の訪れを喜び、草花や虫など命あるものとふれ合うことや絵本や歌などに親しむ(3)
◎賛美や祈りの中、聖書の話を聞く時、また生活を通して、神さま･イエス様の愛を感じる(4.5)
◎これまでの関わりに重ね、新たに出会った保育者や友だちと交わる中で居場所が生まれる(4.5)
◎光・風・草花・虫など、自然のおもしろさ・美しさを楽しむ(4.5)

今月の聖句　「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え。」

詩篇９６：１

聖書に出てくる最初の言葉は、「初めに、神は天と地を創造された」（創世記１：１）です。聖書の神さま、キリスト者が信じる神さまは、創造の神です。私たち人間を含めた、この地上にある全てのものを造られたお方です。

自然は私たちの心を癒してくれます。マイナスイオンの出る森林と小川、世はそれをパワースポットと呼ぶ場合もあります。日本には四季があり、それぞれの季節を楽しむことが出来ます。目で見て楽しみ、手や肌で触れて楽しみ、食して楽しみます。自然界、造られたものそのものが神なのではありません。

アメリカのナイアガラの滝を見て、ある日本人観光客が、その壮大さに感動し、思わず叫んだそうです。「これは、私のお父さまのものだ」。どういう意味か分からずに、周りの人がそう叫んだ観光客に真意を尋ねました。すると、その人は、「これは創造主なる神さまが造られた大自然です。そのお方は、私をも造られた私の父でもあられます。ですから、この素晴らしい滝は、私のお父さまのものなのです」と答えました。

聖書の書物の一つ、詩篇も同じことを語ります。自然そのものが神ではないけれども、自然は明らかに神を、創造の神の偉大さを指し示している、と。今月の聖句である詩篇第９６篇１節の言葉、「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え」とは、そういう意味なのです。

協力牧師　池田基宣

５月の行事予定

10 ～ 20 日	家庭訪問
１２日（木）	５月誕生会
１６日（月）	内科健診
16 ～ 20 日	フリー参観
１７日（火）	交通安全教室
１８日（水）	弁当日
２１日（土）	職員研修(不審者対応)
２５日（水）	弁当日
２８日（土）	夏まつり役員会(10:00~)

６月の行事予定

４日（土）	職員研修（熊毛地区）
８日（水）	歯科健診
１６日（木）	６月誕生会
２２日（水）	弁当日

ボール遊び～もも

～田植え～

～交通安全教室～

～内科検診～

～誕生会～

鯉のぼりと背比べ～あじさい

～フリー参観～

ドキドキ・ワクワクの１ヶ月

花々も色鮮やかに咲き、春真っ盛りの気候は気持ちがいいですね。園庭に出ると、テントウムシやダンゴムシ探しに大忙しです！

今年度がスタートしあっという間に1ヶ月経ちました。朝は「ママがいいー！」と、ちょっぴり涙の子もいますが、何故かおやつの時間はシーンとして、黙々と食べている子どもたちです(笑)

先日、あじさい組に入っていた時のこと。「せんせー、もも組じゃないよー！」と、得意げな表情でピカピカの青色帽子を見せてくれた男の子。もも組ではなかった上靴を、「これ、見て！」と女の子。トイレに向かい、ズボンやオムツの脱ぎ履きも時間がかかりながらも自分たちで頑張っていますよ。たった1ヶ月なのに、新しい環境に慣れてすごいなぁ！と感じました。

園内探検では、ここは何のお部屋？とワクワク。「おにの部屋？」「お家に鬼いるよ！」「えっ！」など保育者とおしゃべりしながら、ドアをトントン。「はーい！」の返事に不安そうな子もいましたが、中にいたのは園長先生。なーんだ！とホッとしたようで、みんなタッチもできましたよ。初めての舞台の上にもドキドキ、手を繋いでプチ探検を楽しみました。

これはなんだろう？どうなってるのかなー？と目をキラキラさせたり、あれこれ考えている子どもの表情が私はとっても好きです。これからもっともっと色々なことに興味や関心が高まっていくのかなと思うと、とてもワクワクします。ひとつ大きいクラスになり少し背伸びして頑張っている子どもたちです。お家に帰ったら、ぎゅーっと抱きしめてもらえると、心のパワーが充電されると思います。5月も心も体も元気いっぱいで遊ぼうね。

主任　大河

あそびは育ちの栄養源

センダンの薄紫の花が雪のように舞い散り、新緑の木々の薫りが園庭を包んでいます。今が盛りの種々の花々が、美しい彩りを添えて微笑んでいるようです。肌寒い朝と夏のような日中との体温調整が難しい季節でもあります。今年も川沿いにはホタルが顔を見せてくれるでしょうか。

新年度を迎えて、あっという間に三週間が過ぎました。玄関での泣き声もずいぶん少なくなり、少しずつ自分の居場所を見つけ始めた子どもたち。周囲の様子を観察しつつ、一日の流れや約束事を理解し始めています。周囲の子どもたちのことにも関心が向き、関わりも高まってくるでしょう。それに伴い、自己主張の衝突も出てくるということになります。いつも仲良く遊んで欲しいと大人は願いますが、様々な心の葛藤や交流を経て、互いを認め合う関係になっていくのを見守ることも大切ですね。何よりも保護者の皆さんが、お子さんのありのままをしっかり受け止めてくださる安全基地であることです。「泣いてもいいんだよ！」「いっぱいあそんでおいで！」それが見えない根を支える大地なのです。

さて、「遊び」を国語辞典で引くと、いくつか目に「気持ちのゆとり」と「機械の連結部分に少しゆとりがあること」とあります。いわゆるハンドルの遊びと言われるもの。私は常々、大人こそこの「遊び」が必要ではないかと思うのです。子どもへの愛情の下に、何歳だからこれができなければならない、中学生ならこうあるべしと、型にはめて押しつけるのは如何なものか。レーシングカーのように「遊び」の少ない運転で、大人に併走されると、子どもの運転も振動(困難)が拡散されず、大事故に繋がってしまうのではと思うのです。我々の心の余裕もこれと同じことですね。どうしても譲れない一線も必要でしょうが、厳格すぎてもあちらこちらに角が立ってしまいます。それに比べて、子どもたちの「あそび」には、まさに本能的･天才的な間(余裕)が存在しているようです。遊びは、子どもの活動と学びの原点。心や体の発達や、社会性、情緒面、それから耐性(我慢すること)、そしてやってよかったという達成感の発達などが促進されるのです。

後白河法皇により編纂された和歌集「梁塵秘抄」に、「遊びをせんとや生まれけむ　戯れせんとや生まれけん　遊ぶ子どもの声聞けば　わが身さへこそ揺るがるれ」という和歌があります。まさに幼児の生活は遊びをするためにあるという本質は、いつの世も同じということですね。集団の中で生まれる絶妙な距離感と自己主張のバランスが、『遊びをせむとや生まれけむ』子どもの真骨頂。私たちもほどよい「遊び」を持って、日々楽しんで暑い夏に備えて子どもたちに接していきたいものです。

子どもによっては、そろそろ疲れが出始める頃です。連休をご家族で楽しまれながら、どうぞ十分な休養もお願いしたいと思います。コロナもまだまだ注意が必要ですが、梅雨時を元気に乗り越えるためにも、毎日の変化に応じた対応や食事･睡眠に留意し、保護者の皆様のご協力をいただきながら楽しい園生活を支えていきたいと思います。

園長

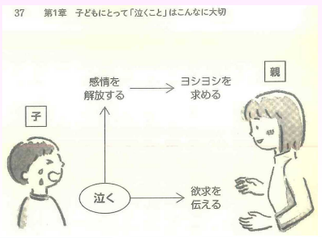
子どもの泣くわけ

阿部　秀夫　著書
「癒やしの子育てネットワーク」代表

子どもが泣くと、親はなぜ切なくなり、一刻も早く泣きやませたくなるのでしょうか。子どもの泣き声がキンキン耳に響いて、居ても立ってもいられなくなるのは、いったいなぜなのでしょうか？

早くなんとかしなくてはと気がせき、でもどうしたらいいのとオロオロしたり、子どもから責められているように感じて、私ってダメな親だと思うほどに胸がズキズキうずいたり、あげくの果てに、いつまで泣いてばかりいるのとばかりにムラムラと怒りがこみあげてくることさえあるのは、なぜでしょうか？

この謎が解けると、子育ては一気にラクになるはず。それというのも、「泣く」という、子どもにとってごく自然な感情表現を、私たち大人がうまく受け止められずにいるために、ややもすると、親子の気持ちの歯車が微妙にかみ合いにくくなってしまうからです。



泣くという感情表現を止めてしまうと、感情そのものがおさえられてしまいます。悲しい・悔しいといった泣きたくなる感情だけでなく、楽しい・嬉しいといった感情まで抑えられがちです。でも、感じることは心の原動力！！「感じる心」が弱ければ「生きる力」は育ちません。

つまり、「泣く力」は「感じる力」であり、「生きる力」そのものなのです。子どもにとって「泣くこと」がどんな意味をもつのか、それがわかれば、まさに目からウロコ。親のつらい思い込みがなくなって、子どもについての新しい展望が開けるでしょう。・・・

この本の著者の阿部先生は、子育てが上手くいかずに苦しんでいる親子の相談を受けながら、”癒やしの子育てネットワーク”の代表を務めておられます。今回はその中の一部を紹介させていただきました。

４月、こども園でもたくさんの声が響きます。その泣き声を保護者の方と、保育者で受け止め、一緒に子どもたち自らの育つ力を見守っていけたらと願っています。

この本には、泣くことで、自分の本当の気持ちに気づく瞬間があると書かれていました。泣くことで、自分の気持ちをすっきり整理して、社会の中で生きていくためのコミュニケーション力に繋げていくことは、子どもも、大人も大事な生きる力となることではないでしょうか。子育てをしながら、実は私たち大人も成長させてもらっているのです。

副園長